

新着情報

- 2021年度入試から、選抜Ⅱでの学力重視枠を廃止。
- バドミントン部、男女共に県3位で中国大会に出場(令和元年夏)。

入試結果

	募集定員	選抜Ⅰ			選抜Ⅱ			選抜Ⅲ	
		定員	受験者数	倍率	定員	受験者数	倍率	定員	志願者数
2018年度	240名	48名	89名	1.85倍	192名	290名	1.51倍		
2019年度	240名	48名	87名	1.81倍	192名	248名	1.29倍	—	—
2020年度	240名	48名	85名	1.77倍	192名	227名	1.18倍	—	—

2021年度募集要項

◆選抜Ⅰ

- <募集定員> 48名(20%)
- <選抜方法> 調査書・面接+小論文

>>2020年度入試実施状況<<

<小論文> 50分

- 2020年度:「君たちはどう生きるか」の文章を読み、①登場人物の考えを50字程度でまとめる②自分の将来を切り拓くために何が必要か。作者の意見をまとめ、自分の考えを400字以内で記述する問題。
- 2019年度:高校生のための哲学入門(長谷川 宏)の文章を読み、①社会の目が何故、高校生に勉強をすることを求めるのか、本文中の考えの中から自分の考えに近いものを選んで書く②社会の目が何故、高校生に勉強をすることを求めるのかについて、自分の考えを述べ、自分にとっての勉強や高校生らしさとは何かについて400字以内で記述する問題。
- 2018年度:教育力(齋藤孝)の文章を読み、①勉強することのいいことがあるか、本文の要約。②勉強することによってよいことがあった経験を400字以内で、具体例を挙げてまとめる。
- 2017年度:なつかしい時間(長田弘)の文章を読み、①挨拶の言葉について、本文中の言葉を使って50字以内で要約。②挨拶のもたらす効果について、自分の体験を踏まえながら400字以内で、様々な観点からまとめる。

<面接> 10分・集団面接(先生3人:生徒3人)

志望理由を具体的に/中学校生活で頑張ったこと、そこから学んだこと/将来の夢とそのため
に高校生活で頑張りたいこと/高校では部活動に参加するか、また入りたい部活は/中学校生活
でぶつかった壁と、それをどのように乗り越えたか/高校生活で大切にしたいこと等

◆選抜Ⅱ

- <募集定員> 192名(80%)
- <傾斜配点> —
- <学力調査書> 2021年度入試から、前年までの学:調=8:2(10%)の学力重視枠を廃止
- <全員面接> —
- <実技検査> —

学校情報

●選抜Ⅰについて

- 当日課せられる小論文が重視され、文章が正確に読み取れているか、自分の考えをいかに文章にまとめることができているかを見る。
- 以前はクラブ活動(県大会出場)や生徒会活動、ならびに校外活動(ボランティアなど)も点数化され可否判断の材料として重要だったが、2015年度入試からは、あまり重視されなくなった。2017年度入試からは、部活動で相当な実績がある生徒の推薦枠が数名復活した。
- 小論文の形式は、例年出題された文章を読んで考えを記述する問題が出題され、さらに校訓も問われた。2010年度・2011年度は傾向が戻ったが、2012年度はグラフ問題が復活した。3年おきにグラフ系の問題が出題されていたが、2013年から2020年度入試は8年連続文章を読んだ記述であった。

●選抜Ⅱについて

- 2008年度、学力検査と調査書の比率が20%枠で9:1となったことから、当日のテストの結果によって、合否に影響がでるようになった。しかし、2015年度からは8:2となった。毎年10名程度の逆転が出たと思われる。2016年度からは10%枠に減っていた。さらに2021年度の入試からは学力検査重視枠が廃止されるため、学力検査で逆転は厳しくなり、中学校3年間の内申点もきっちり取っておく必要がある。

●模擬試験について

- 1,2年は年に年3回進研模試や1回の全統模試スタディーサポートなどを実施。3年生は月1回程度模擬試験を実施。

●進路に対する取り組みについて

- 数年前に県下5校のチャレンジハイスクールに認定され、合同合宿、県内大学訪問、県内企業訪問などで意識の改革を図ってきた。「きせきのノート」を全学年に配布、教員たちのコメント指導などにより家庭学習時間が飛躍的にアップ。模試の結果も連動して良くなってき

ている。1年生時には、広大のオープンキャンパスに全員参加、2年生時には中四国の国立大学に対し志望別大学訪問を実施。放課後補習、土曜講座(希望者補習)、週末自習室(土・日・祝9:00~17:00)は40名程度が毎週参加、長期休暇中の補習、国数英のバランスの悪い生徒にはチューター制による個別指導などを積極的にを行い、国公立大学合格のためのサポート体制が充実している。

●指定校推薦について

- 県内のほとんどの私立大学への指定校推薦枠を有し、県外の私立大学へも多数の指定校推薦枠を保持しているが、あまり指定校推薦枠は使わないで一般入試を受けていく方針。

●研修旅行・行事・イベント・国際交流について

- 修学旅行(長野、東京)だが、2020年度は沖縄の予定。その他、1年生は2泊3日のスタートアップセミナー、2年生は広島経済大学にて春期集中学習を、3年生は8月に広島文教女子大学での夏期集中学習を実施。文化祭、体育祭、クラスマッチ。ハワイのカラニ高校との姉妹校交流(毎年15~25名程度の生徒が海外研修に参加)2020年度は中止だった。

●その他

- 2018年度は、映像情報研究部とフィギュアスケートでの全国大会出場、陸上、バレーボール男子、バドミントン男女で中国大会。2019年度は放送部、将棋部の2年連続全国大会出場を筆頭に、陸上部、男子バレー部、男女バドミントン部中国大会出場、4年前まで2年連続で男女バドミントン部が全国大会に出場するなど優秀な成績を修めている。サッカー部で国体の県選抜で活躍する選手がいるなど、クラブ活動にも力を注ぎ、文武両道の学校作りを目指している。クラブ活動加入率87%とバランスのとれた校風。
- 文化祭(えげやま祭)は近年、地域住民の参加も多く、各学年ともに趣向を凝らして盛り上がりを見せている。

クラブ活動

- 体育系 サッカー／硬式テニス／バレーボール／剣道／柔道／バスケットボール／ソフトテニス／陸上／卓球／登山／バドミントン
- 文化系 吹奏楽／映像情報研究／調理・手芸／茶華道／理科／文芸／放送／ESS／書道／軽音楽／将棋／写真／美術／ボランティア

進路実績

大学の合格実績については、現役生のみ的人数。

	県立広島大	広島市立大	国公立合計	広島修道大	安田女子大	関関同立	私大合計	短大	専門学校	就職
2018年度	12名	5名	50名	117名	66名	3名	488名	20名	57名	5名
2019年度	8名	6名	42名	139名	75名	2名	509名	17名	41名	6名
2020年度	5名	9名	45名	161名	61名	3名	554名	23名	46名	2名

- 2017年は広島大4名。2018年は広島大5名。2019年は広島大4名。2020年は広島大3名、大阪大1名